

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ミライ・シア

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園宮前平	種別：認可保育所	
代表者氏名：友利 早苗	定員（利用人数）：60名	
所在地：神奈川県川崎市宮前区馬絹1-6-2		
TEL：044-982-0790	ホームページ： https://www.like-kd.co.jp/academy/establishment/nijiiro/miyamaedaira/index.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2017年4月		
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社		
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 7名	
専門職員	（専門職の名称）看護師 1名	
	栄養士 1名	
	調理師 2名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室1 ほふく室1 保育室4	事務所兼医務室1 給食室1 休憩室1

③ 理念・基本方針

- 1) 保育理念 のびやかに育てだいちの芽
- 2) 保育方針 みとめ愛 みつめ愛 ひびき愛
- 3) 陽だまりのような保育園
- 4) 地域と共に育つ保育園
- 5) 子どもと共に輝いていける保育園

④ 施設・事業所の特徴的な取組

当園は、都市型建物の外観でありクールな造りとなっています。一方施設の中は、陽の射し込みが随所にあり、空気が柔らかく、非常に心地良い空間になっています。駅近くの立地で保護者層には交通の便も良く、駐輪スペースも十分に確保され送迎時にゆとり持つことが出来ます。

園の紹介に園庭が無いことが記載されていますが、それを補う以上に施設には可動する屋根付きの広いウッドデッキがあったり、近隣公園へ散歩コースが充実していたり等々、各所に工夫されていることが確認出来ました。

利用するすべての方にとって「第二の家」となることを掲げています。そして、掲げるだけでなく日々の保育での実践、ちょっとした挨拶、温かさが溢れている、それが当園の特長です。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年 5月 16日（契約日）～ 2023年 2月 9日（評価結果確定日）
--------	--

受審回数（前回の受審時期）	2回（2020年度）
---------------	------------

⑥総評

◇特長

1 子ども一人ひとりを大切にした保育

子ども一人ひとりを理解し、丁寧に向き合うことを心がけています。その子そのままを受け止め、共感する事を大切にしています。保育園と家庭の生活の流れや連続性を大切に、子どもが安心できる環境を整え、一人ひとりの思いを受け止めるようにしています。日々の様子や興味関心、活動に取り組む姿、友だちとの関わりなどを個別に職員が良く観察し、会議や毎日の打ち合わせ等により職員間で共有しています。子どもの個人差を尊重し、各々の意欲や達成感が持てるように援助し、活動や遊びが広がるようにしています。

2 全職員で子どもの育ちに関わる姿勢

園長のリーダーシップのもと、クラス担任、看護師、栄養士、非常勤職員が協力しながら、クラスを超えて子どもの様子を把握しています。看護師は、保健衛生・健康面で、専門的な立場で保育に関わり、ヒヤリハットや安全面に関する考察も行っています。栄養士は日々の食事提供のほか食育に関わっており、年齢ごとの保育のねらいを踏まえ、食育活動を行っています。職員会議、ケース会議、毎日の打ち合わせ等で子どもの様子を確認しあっています。職員はお互いに協力しあい、全職員で丁寧に子どもに接し、育ちを見守っています。

◇今後期待される点

1 会議等での振り返り後の課題の抽出が望まれます

日々の保育を行っていくために仕組みが整備されており、安定した保育を提供しています。その裏付けとなるとが書面によるPDCAサイクルが根付いている点が要因の一つとなっています。

計画に際にして職員の意見を幅広く取り入れながら作成し、実践後に日々の夕礼や会議時、また振り返りシートによる定期の振り返りなどの仕組みが整備されています。この流れの中で、会議録や計画には振り返った後の取り組み項目の抽出、共有、明記が確認できませんでした。それぞれの計画に対する振り返りはあるのですがそれが単独で終わっており、次回に向けた課題抽出と設定が確認できませんでした。

会議の中で各職員から気づきの声が発せられ、会議議事録に記載されました。そのような気づきを実践課題に結び付け、達成を皆で味わえると当園の一体感や職員の達成感がさらに充足されると推察されます。

2 園独自の事業計画への表記と実践項目との連動が望まれます

運営本部を中心に整備している規程類と実施体制により安定した保育が実施されています。将来像を共有する中期経営計画書もあり、方向性が確認できます。中期経営計画に基づく単年度の事業計画も作成しています。作成にあたり、振り返りをしたり園の状況を踏まえたりするステップがあることも確認できました。また園で提供しているサービスは「第二の家」となるべくアットホームさを活かし、職員も連携しながら進めています。

今回の調査年度における事業計画書は、園長が代わった年度であり、振り返りに深く携われなかった点を考慮する必要があります。来年度以降は、本部からの方針を受けつつ、園独自の保育実践の取り組みを明記していくことが期待されます。事業計画の進捗状況は適時確認していることは確認出来ました。しかし、作成で終わるだけの事業計画だけでなく、振り返りの際に確認できる事業計画書項目になることが待たれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審するにあたり、職員それぞれが改めて振り返りを行い、実際に保育へ生かすことができました。改善を期待する点につきましては今後に生かしていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中アンケート等にご協力いただきました保護者の皆様ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり